

2月の果実の見通し

令和2年1月31日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
りんご類	青森	6609	90%	6930	277	高い～平 年並み	294	34	0.5%	年明けから青森県産貯蔵品の本格シーズンとなった。台風被害、8月の高温等の影響で生産量は少なく、産地在庫量は前年を下回っている。下位等級品の比率は平年より高く、小玉傾向であるが、食味は問題なし。年内から入荷減・単価高で推移しているが、2月もその流れは変わらない。他の果実品目に比べ、食味の評価は相対的に高い。高値基調のため、2月も40玉中心に引き合いがある。
いちご類	栃木 福岡 静岡 佐賀 ほか	4111	95%	4307	1513	平年並み	1361	-	-	1月は天候不順のため出回り量は少なかった。 2果房は、曇雨天による日照量不足の影響が大きく、生育が遅れ気味となり、出荷は1月下旬から始まった。出荷始めは、低温の影響で平年と比較して大玉比率がやや低かった。 2月に入ると、早出しポットと普通ポットが重なって各産地の入荷量が増えてくるが、前年ほどの入荷量のボリュームはない見込み。 月を通じて大玉果を中心に、月末から3果房も出始める。
キウイ	福岡 和歌山 愛媛	800	110%	847	490	高い	493	-	-	輸入品は例年どおり1月末で切り上がり、国産「ハイワード」中心の販売となる。 玉伸びは平年比ではやや小玉の仕上がり。 入荷量は前年を上回るも、輸入品の残量の切り上がりが早く、価格は前年以上。
みかん類	静岡 長崎 熊本 ほか	7913	85%	8499	354	高い～平 年並み	311	-	-	1月前半の販売量は多かったが、成人の日の連休明けから減少し、2月の入荷量は前年より少ない見込み。 主力となる静岡県産「青島温州」「寿太郎」は、気象災害から産地からの出荷量は前年の7割のレベル。 長崎県・香川県・徳島県産は順調に出荷が続いていたが、2月の入荷は前年並みからやや減少の見込み。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)